

情報連絡員だより

－令和元年 12 月の報告より－

年末需要は低調、業況の停滞続く

業種 / 景況天気図		概況
全	体	一部を除いて年末需要は低調となり、全体的な業況も振るわない状況が続く。また、今後明るさが見られず、先行きを不安視する声も聞かれる。一方で、台風被害からの復旧に伴う需要が発生しているところもあり、窯業・土石製品では3年6ヶ月ぶりに「薄日」となっている。
製 造 業	食料品	パンは、クリスマス商戦が低調であったが、年末で持ち直し前年並みの売上となる。菓子は、売上単価が上がらず、1月より一部値上げを検討。製麺は、お歳暮及び年末の荷動きが前年を下回り売上減少。酒造は、純米酒の売上が好調だが、普通酒の低調が続き全体で売上減少。食肉は、CSFの影響はなく順調に推移。
	繊維・同製品	桐生織物は、オリンピック開催による各種イベントへの影響や消費動向の変化を注視している。伊勢崎織物は、広巾織物に期待感があるものの、依然として厳しい経営環境が続く。ニットは、取引条件が改善しているが、業況に大きな変化はない。繊維製品は、アパレル業界の業績不振に伴い、業況が悪化している。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、新年への期待感から需要が膨らみ売上・収益ともに増加、1月以降も継続する見込み。生コンは、東毛地域で防災・減災工事の発注があり出荷量増加。砂利は、生コンの出荷増に伴い生産量増加。砕石は、概ね前年並みだが、吾妻地域において災害対応のため生産量増、設備操業度上昇となる。
	機械・金属	鍍金は、自動車部品関連・電子部品関連ともに低調に推移しており、年明けの仕事量も十分でないため先行きを懸念。自動車関連は、中国・韓国向けの部品輸出が依然低調、国際情勢の不安定さにより先行き不透明な状況。電機関連は、台風で被災した製品の保守メンテナンス需要が引き続き増加傾向。
	その他の製造業	木材は、原木の仕入単価高と販売価格安により非常に厳しい状況。紙加工品は、全体的に動きがみられたものの、前年より鈍化し業況悪化。ゴム製品は、業況は良くないが、営業努力により取引先を確保し現状維持。印刷は、消費の冷え込みにより売上が伸び悩む、また、組合員間で格差が出てきたことを不安視している。
非 製 造 業	卸売業	卸団地は、引き続き深刻な人手不足に悩んでいる状況、働き方改革により従業員の労働環境は改善されつつあるが、それに伴い企業負担が増加している。農産物卸は、商品の供給が順調となり例年より単価が安く推移。水産物卸は、売上は減少したものの、利益率を重視した取り組みにより前年並みの収益確保。
	小売業	家電小売は、年末需要が期待外れに終わる。中古車オークションは、成約率がやや悪化、消費税増税による動向の変化を注視。燃料小売は、OPECの減産合意等により原油・販売価格が上昇、暖冬の影響で灯油の需要減少。生花小売は、クリスマス関連の動きが鈍く売上減少。商店街は、一部地域を除き年末商戦で苦戦。
	サービス業	温泉旅館は、降雪が少なく休日の並びが良かったこと等により、全体的に好調となる。沼田地域における不動産取引は、少子高齢化に起因した人口減少により、潜在的な購買力の低下がみられ業況悪化。建築設計・自動車整備は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業	建設工事は、1月以降の災害復旧工事発注を待つ。解体工事は、仕事量は十分あるが、人手不足の状況。電気工事は、受注量がやや減少傾向で、特に住宅関連で減少している。塗装工事は、仕事量は前年並みだが、例年と比較すると低調。鉄構は、オリンピック関連や県内の大型物件の仕事が落ち着き、先行きを不安視。
	運輸業	一部を除き年末の繁忙感も感じられず、燃料価格の高止まりが継続しているため、全体的な業況が悪化傾向にある。野菜関係は、台風の影響もあり露地野菜が根腐れを起こし、配送量減少。小口配送は、医薬品PETは好調を維持しているが食料品関係が減少し、年末の駆け込み的な依頼もほとんどなかったため売上減少。